



お祝いと期待の言葉

大学院地域文化研究科長

立石 博高

卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございます。

祝辞のあと

には「乾杯」がつきものですが、スペインでは「サルー」と言います。「健康」という意味で、これから社会で活躍される皆さんに、健康であることを心より願います。この「サルー」の後にスペインではいくつかの言葉が続きます。先ずは「ディネーロ」、「お金」です。健康であってもお金がないと人生は楽しめないという少し俗っぽいことですが、皆さんは企業ならばいわゆる中間管理職をめざして活躍されるであろう方々ですから、お金の心配はいらないでしょう。次は「アモール」、「愛情」ですが、これは人によっては難しいかも知れません。でも皆さんは、この外語大でのキャンパスライフを通じて豊かな人間関係を築かれたと思いますから、きっとうまく行くと思います。もう、素敵な出会いを経験した人もいるかも知れませんね。

さて、最後に添える言葉ですが、これら（健康、お金、愛情）を楽しむための「ティエンポ」つまり「時間」です。しばらく前ならば、若い人たちに時間があるのは当たり前でしたが、近年の状況はひどくなっていますね。バブル崩壊前には、長時間労働が反省されて週休二日制やサービス残業廃止が実現し

ていったのですが、いまは競争や成果が主義化されてしまい、仕事以外の時間をもつことがまるで乗り遅れになるかのような意識を生み出しています。皆さんが社会のなかで自分の「時間」をもてることを心より願います。

ただ、そのためには自分だけの活動、自分だけの努力で足りるとは思いません。時間は他の人との関係のなかで生れるものです。いま日本は世界のなかでももっとも社会的格差の強い社会となっています。正社員以外に派遣社員、アルバイト社員などが急増し、富裕者と貧困者への二極分解が進んでOECDの定義でも、同加盟国中第5位の高貧困率の国となっているのです。こんななかで、皆さんだけが「勝ち組」になってほしいと願いたくはないのです。19世紀末の野放図な競争的資本主義の結果、スペインでも二極分解ははなはだしいものでした。当時、労働者たちは、「サルー」に続けて、「トラバーホ」と「フスティシア」という言葉を挨拶に付け加えたといわれます。つまり「労働機会」と「社会的公正」です。これから社会に出て活躍される皆さんに、「乾杯（健康）」、そしてこれら二つも添えて、お祝いと今後の活躍への期待の言葉とさせていただきます。

Salud, trabajo y justicia.